

ディーゼル機関車新型車両 “NDD5603”号を代替導入

当社は、このたび大手石油元売りメーカーの根岸製油所構内の作業で使用する新型ディーゼル機関車“NDD5603号”を代替導入いたしました。

当社が所有するディーゼル機関車3台のうち、1981年から43年間稼働したD504号が今春勇退することになり、設計段階から約2年の歳月を経てようやく2024年3月に新型車両が完成いたしました。

“NDD5603号”は、環境面では第3次排出ガス規制に準じたディーゼルエンジンを搭載し、車体カラーも日新カラー（オレンジ、マルーン）を取り入れるなど、これまでにない明るく斬新でカラフルな塗装を採用しております。今後は各種石油製品の出荷作業に従事し、重要な社会インフラを支える一翼を担ってまいります。

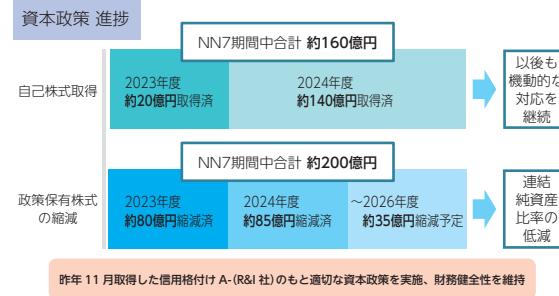


資本政策の取り組み状況

当社は、5月9日付で「第7次中期経営計画(Nissin Next 7th) フェーズ2計画策定及び数値目標修正に関するお知らせ」、11月12日付で「配当方針の変更（累進配当(*)の導入）に関するお知らせ」を開示し、11月22日開催の当社決算説明会において、資本政策の取り組み状況について次のとおり発表しております。

※累進配当…原則として減配せず、配当の維持もしくは増配を行う配当政策

資本政策	(1)株主還元方針
	配当指標：DOE（株主資本配当率）4.0%を下限とする累進配当 自己株式取得：2024年度までに約160億円取得 自己株式消却：発行済株式総数の5%を超える部分は原則毎期消却
	(2)政策保有株式の縮減
	みなし保有株式を含め、2026年度までに約200億円を縮減



会社概要 (2024年9月30日現在)

商号 株式会社日新
設立 1938年12月14日
資本金 60億9,726万3,500円
本店所在地 横浜市中区尾上町六丁目81番地
ニッセイ横浜尾上町ビル

ホームページのご案内 <https://www.nissin-tw.com/>



最新の情報は
当社ホームページで
ご覧いただけますので
ご利用ください。

株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日 3月31日
中間配当金受領株主確定日 9月30日
定時株主総会 毎年6月
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関
同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1
電話 0120-232-711 (通話料無料)
郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所 東京証券取引所
公告の方法 電子公告により行う
公告掲載URL <https://www.nissin-tw.com/>
(ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

各種手続のお申出先

- 未受領の配当金のお支払いについては、株主名簿管理人にお申出ください。
- 住所変更、単元未満株式の買取・買増、配当金受取方法の指定等証券会社をご利用の株主様は、お取引の証券会社へお申出ください。証券会社をご利用でない株主様は、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行へお申出ください。

特別口座でのお手続用紙のご請求はインターネットでもお受け付けております。

ホームページアドレス <https://www.tr.mufg.jp/daikou/>
(一部の用紙は、お手持ちのプリンターで印刷できます。)

世界の人々に
感動を運び、
地球を笑顔で満たす



北関東ロジスティクスセンター

第116期 中間報告書



2024年4月1日 ▶ 2024年9月30日

証券コード 9066



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。

株主のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。

当社第116期中間期（2024年4月1日から2024年9月30日まで）の営業の概況をとりまとめましたので、ここに本報告書をお届け申し上げます。

当社は、当社グループの強みである海外ネットワークと国際物流を生かした新たなビジネスモデルを、グループ一体となって創出し続けることで、更なる飛躍と持続的成長を目指してまいります。

なお、当年度の中間配当金につきましては、1株当たり100円とし、本年12月5日を支払開始日とさせていただきます。

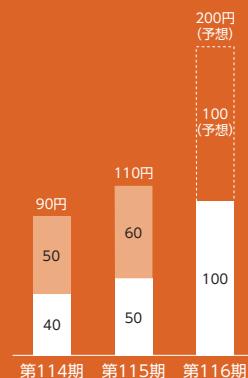
株主のみなさまにおかれましては、変わらぬご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

筒井 雅彦

1株当たり配当金

■ 中間 ■ 期末



営業の概況

当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間の世界経済は、米国では好調な個人消費が継続するなど底堅く推移した一方、中国では消費の低迷が続きました。わが国においては緩やかな回復基調が続いたものの、物価上昇や為替変動の影響など先行き不透明な状態が続きました。

このような状況下、当社グループは、本年4月よりスタートした第7次中期経営計画フェーズ2において、グループ一丸となり、着実に取り組みを進めています。物流事業では、海上貨物の取り扱い、国内、海外ともに堅調に推移しました。航空貨物の取り扱いについても、海上輸送からの代替輸送等もあり一部に底打ちの兆しが見られました。旅行事業においては第2四半期に入り団体旅行の取り扱いが収益に寄与するなど、順調に推移しました。

これらの結果、当中間連結会計期間における売上高は前年同期比13.5%増の93,452百万円、営業利益は前年同期比10.1%増の4,543百万円、経常利益は前年同期比3.3%増の4,974百万円となり、親会社株主に帰属する中間純利益は前年同期比112.6%増の7,743百万円となりました。

セグメントの業績は以下のとおりです。

事業別売上高 (百万円)



より詳細なデータについては

▶ 株主・投資家情報

当社ウェブサイトをご覧ください。



▶ 決算資料



▶ 統合報告書



▶ サステナビリティ



第7次中期経営計画「Nissin Next 7th」フェーズ2

3年後「フェーズ2」での成果に向けて

中期経営計画の最終年度（2026年度）目標は、「親会社株主に帰属する当期純利益86億円」を「98億円」へ、「ROE 9.0%程度」を「10.0%程度」へ上方修正しました。「営業利益110億円」「経常利益115億円」は据え置きとしましたが、「売上高2,750億円」については、物流環境等の変化を踏まえ「2,200億円」に変更しました。成長投資については、5年間で合計400億円を投資する計画です。「フェーズ1」では、神奈川埠頭倉庫と北関東ロジスティクスセンターを主な投資対象とし、100億円を実行しました。「フェーズ2」では、神戸と熊本での倉庫建設やその他国内外施設への投資へ250億円、IT・DX推進やM&A、ESG関連および人材関連の投資へ50億円を充てることを考えています。計画達成を目指し、これらの成長投資を事業の深耕・拡大につなげながら、環境課題への対応をはじめ、ガバナンス・人的資本の強化を図ります。これからの当社グループの変化と3年後の成果にご期待ください。

財務目標 (連結)

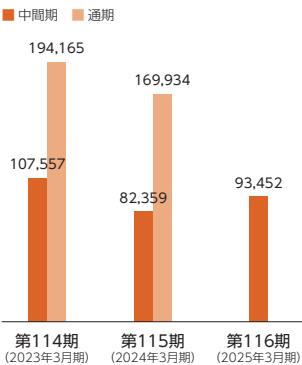
	第6次中期経営計画	第7次中期経営計画	
	最終年度	フェーズ1	フェーズ2
売上高	1,926億円	1,699億円	2,200億円
営業利益	90億円	80億円	110億円
経常利益	98億円	94億円	115億円
親会社株主に帰属する当期純利益	63億円	86億円	98億円
自己資本利益率 (ROE)	9.40%	9.70%	10.0%程度

2025年3月期連結業績見通し

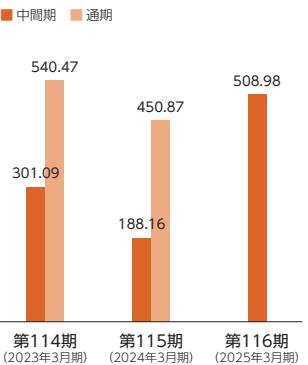
売上高	183,000百万円 (前期比 7.7%増)
営業利益	9,100百万円 (前期比 12.7%増)
経常利益	9,800百万円 (前期比 3.6%増)
親会社株主に帰属する当期純利益	10,300百万円 (前期比 19.1%増)

営業成績および財産の状況の推移 (連結)

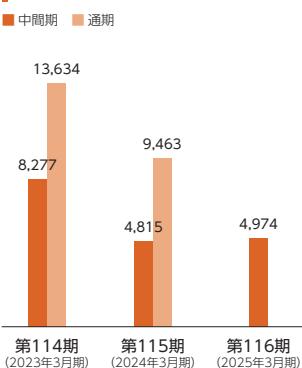
売上高 (百万円)



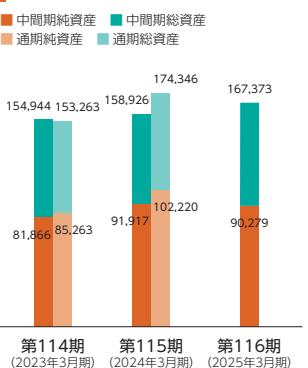
1株当たり中間 (当期) 純利益 (円)



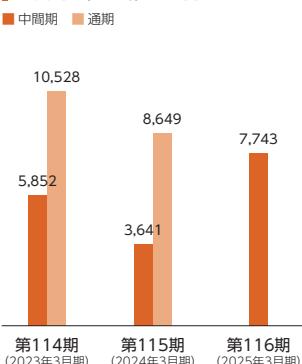
経常利益 (百万円)



総資産・純資産 (百万円)



親会社株主に帰属する中間 (当期) 純利益 (百万円)



1株当たり純資産 (円)

